

平成20年3月14日

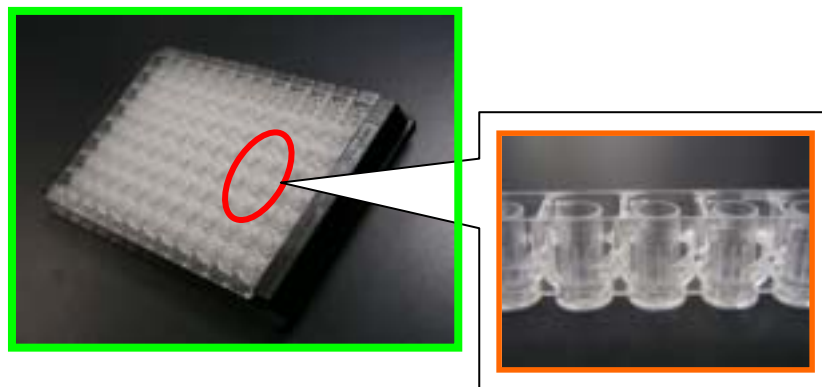
各 位

会社名 株式会社エンプラス  
代表者名 代表取締役社長  
杉本 敏昭  
(コード番号 6961 東証第一部)  
問合せ先 取締役経営企画・管理本部長  
酒井 崇  
(TEL. 048-253-3131)

## 樹脂製 高機能タイタープレートの開発

当社は、様々な生化学用途反応部材をウェル内に導入できる  
新規樹脂製タイタープレートを開発いたしましたのでお知らせします。

今回、高度な微細加工技術を利用して新規樹脂製タイタープレートを開発し、本プレートと各種生化学用途反応部材を融合する事により、反応と検出をより簡便に行なう事が可能となりました。これは、様々な用途において、測定感度の高度化、サンプル量の少量化、多検体の同時処理そして自動化等の可能性を切り開くものです。



本プレートの実用開発においては、株式会社ペプタイド ドア（本社：群馬県高崎市、代表取締役 鈴木 政嗣、以下ペプタイド ドア）とエンドトキシン検査システムの共同開発に関する契約を締結しております。

エンドトキシン（LPS）とは、グラム陰性菌の外膜に存在する毒素で、極少量でも血中などに入ることにより、敗血症や敗血症性ショックを引き起こします。発熱、ショック、播種性血管内凝固症候群（DIC）更には多臓器不全等を併発し、重症の場合には死亡率の高い疾患です。この為、注射剤等においては、その混入基準値が厳格に規定されております。

現在、このエンドトキシン測定法は、LAL法と呼ばれるカプトガニの体液凝固を利用した高感度測定法が主体となっております。一方、一部の血液製剤や抗生物質等では、このLAL法が適用できず、未だにウサギ発熱試験が行なわれておりますが、コスト、そして何よりも生命倫理の観点から、その置換えが危急の課題とされて参りました。

ペプタイド ドアでは、エンドトキシン結合ペプチドを用い、これまで不可能と言われていたヒト・アンチトロンビンⅢ製剤中のエンドトキシンを、LAL法で測定可能にする、世界

で初めての前処理キット開発と製品化に成功致しました。勿論、本方法はその他のウサギ発熱試験が不可避であった製剤にも適用が期待され、また、グラム陰性菌由来の敗血症診断薬としての可能性も期待されております。

一方で、当初開発された方法は煩雑な作業を含むもので、より簡便に、更には自動化が期待されるシステムへの変更が望まれておりました。

そこで、当社の開発した高機能樹脂タイタープレートとの融合により、新規のエンドトキシン検査システムの可能性を導き出す事が期待されております。

当社は今後もタイタープレート分野での新たな市場開拓を目指し、本プレートを用いた様々な用途開発を進めて参ります。

#### 問い合わせ先

株式会社エンプラス

〒332-0034

埼玉県川口市並木2-30-1

事業化推進室長 橋本 雅之

TEL : 048-253-3131

FAX : 048-255-1688

HP: <http://www.enplas.co.jp/>

以上